

とやま 保険医新聞

2010年 富山県保険医協会
 10/25 富山市桜橋通り6-13、フコクビル11階
 第327号 (076) 442-8000、FAX 442-3033
 発行人 矢野博明
 (年間購読料6,000円・一部500円)

主な記事

- ・個別指導通知が届いたら… (2面)
- ・在宅医グループ⑤「メディカルネット屋気楼」 (3面)
- ・歯科レセ電、猶予・免除の届出は年末までに (4面)
- ・ITによる医療連携研究会 地元からの報告 (5面)
- ・5大がん対象の「地域連携パス」の運用にあたって (6~7面)

医療安全管理研修会を開催

すぐに役立つ患者・スタッフトラブル対処法



会場ぎっしりの参加者と尾内氏 (10/13 名鉄トヤマホテル)

十月十三日(水)、医療機関が遭遇しやすいトラブルへの対処法をテーマに、医療安全管理研修会を開催しました。



正面から向き合う姿勢が大切

講師は大府府保険医協会事務局長の尾内康彦氏。医師、歯科医師、医療機関管理職など百十一名が参加しました。尾内氏は長年大阪協会に寄せられる会員医療機関からのトラブル相談を担当してきた経験をもとに、実例をあげながら医療現場での対応のポイントをわかりやすく解説しました。講演の中で尾内氏は、モニター化する患者が激増している背景をしっかりと押さえることが大切と前置きした上で、「医療機関にサービス業の形式をとらせる傾向が主流となっている最近の接遇では対応が難しい。」

患者に正面から向き合い、時には対決するという側面が希薄な医療機関は、モニターベイシメントにどうして格好のターゲットとなっている」と指摘しました。

また、今までの相談事例の多くが最初の対応の行き違いなどからこじれてしまいう状況が多いことから、医療機関としても常に非常時の対応を意思統一しておく必要性を強調しました。実際の解決にあたっては、当事者や対応する責任者が、トラブルから目を背けず腹を据えて患者と向き合う気持ちになれるかどうかが分岐点になる、と述べました。

富山市、高岡市など

9つの市町議会で採択

歯科の充実を求める国への意見書

9月市町村議会での検討結果

朝日町	採択
入善町	採択
黒部市	採択
魚津市	採択
滑川市	採択
上市町	継続審査
立山町	継続審査
舟橋村	継続審査
富山市	採択
射水市	全議員に陳情書を配布
高岡市	採択
氷見市	採択
砺波市	委員会で陳情書を配布
南砺市	委員会で趣旨採択
小矢部市	採択

協会は九月、県内十五市町村議会に対し、「歯科の充実を求める国への意見書」を採択を求め陳情を行ないました。各市町村の九月定例議会で検討された結果、富山市や高岡市など九つの議会で採択されました。

この結果は富山県議会で同趣旨の意見書がすでに採択済みであるとともに、今回の取り組みでは、陳情書とともに多くの歯科医師の賛同署名を提出したことが

大きな推進力となっているものと思われ、協力いただいた先生方には心より御礼申し上げます。

陳情後、議事事務局から、名簿のない歯科医師は陳情の趣旨に反対なのかどうか、という問い合わせが複数あり、名前を出すことにためらう方はおられるが趣旨に反対の歯科医師はいない筈と返答しました。

一方、九月議会で採択に至らなかった六市町村は、

全市町村での採択達成に向け引き続きご協力ください

射水市、砺波市、南砺市は再度の陳情を

れており、このままでは地方自治法第九十九条に定める国への意見書の提出とはならないため、協会では十二月議会に向けて再度働きかけを行う予定です。

富山県保険医協会

第32回 定期総会

協会は、開業医の日常診療向上と福利厚生に寄与し、地域医療再生のため病診・診診連携、多職種連携をすすめています。来期にむけて会員各位のご意見を頂きたいと存じます。ぜひご出席ください。

日時 **11月16日(火)**午後7時半～

会場 **富山電気ビル 5F中ホール**



- 2010年活動報告 決算報告
- 2011年活動方針 予算案
- 役員改選



漸く政権交代以来のドタバタも治まり、「日本再建」に向かつて歩みだすかの期待も束の間次々と目替わりで飛び込む大ニュースに政治も社会も振り回されている。

特捜部検事の証拠改ざん、中国の恫喝外交、北朝鮮の権力世襲、日本人のノーベル化学賞、小沢一郎の強制起訴、チリの奇跡の救出劇等、良いも悪いも目白押し。秋である。マスコミも追いつくのが精一杯、とりあえず馬鹿正直かつ無批判に「消費者好みのお人好し記事」を提示するだけ。時に悪乗りして大新聞やNHKまでが芸能週刊誌やワイドショーに墮し、三面記事のように次々と「消費させる」だけの報道。「地球の裏側」をなんで一人一人顔写真入りで家族のことまで知らせんなんがけー?と家内も言っていた。

「二億総白痴化」が言われたのは歴史的過去となり、テレビには期待はしていないが、最近「新聞のテレビ化」が進んだことを痛感している。姿勢を正して読んだ加藤周一や吉田秀和の文章が懐かしい。「情報氾濫時代」。「全能と錯覚した無能者が跋扈する時代」である。本当の「知識人」(大人(タイジン))が復活して欲しい。(K・O)